

JLDG ユーザ証明書の更新・再発行が必要な皆様、

JLDG ユーザ証明書更新・再発行手順について

JLDG チーム 2021/03/04

JLDG では、管理系ソフトウェアの更新を適宜行っています。この度、グリッド認証基盤ソフトウェア (naregi-ca)の更新を行い、仮想組織管理ソフトウェア(voms)の更新準備を開始しました。これに伴い、ユーザ証明書の再発行の手順を以下の様に変更します。皆様のご協力をお願いします。

要点:

証明書の Subject が、以下の様に変更されます。

(現) /C=JP/O=Japan Lattice Data Grid/OU=所属グループ名/CN=フルネーム

(新) /C=JP/O=JLDG3/OU=所属グループ名/CN=フルネーム

管理者による『新 subject と gfarm の global name の紐付け変更』後、JLDG の利用を再開できます。従来通り、更新依頼は、ユーザ本人による登録済みの Email address からの仮想組織管理アドレス (voadmin@jldg.org)宛ての依頼のみ受け付けます。

なお、現在、仮想組織管理サーバ (vomsrv.jldg.org)へのアクセスはできません。証明書更新時には、従来通り、仮想組織管理サーバへのアクセスは不要です。

0. (登録 Email address の確認) JLDG 管理グループからのアナウンスを受信しているアドレス(自身で転送している場合は転送前のアドレス)が登録アドレスです。メールの配信エラー回数が規定値を超えるとメールの配信は停止されますが、登録自身は維持されています。異動等によって、登録 Email address からのメール送信ができない場合は、所属グループの管理者に『所属拠点と登録 Email address、勤務先住所 (ローマ字)、勤務先電話番号』の変更を依頼して下さい。所属グループの管理者による本人確認と、仮想組織管理グループによる登録情報の変更後、新 Email address 宛て『登録情報変更済み』旨、連絡します。

1. 登録 Email address から、現証明書の subject を添えて、仮想組織管理者 voadmin@jldg.org 宛て、ライセンス ID の発行を依頼してください。予めグループ管理者の内諾を得ているとスムーズに処理が進みます。証明書は、現証明書の有効期限まで、概ね1ヶ月以内になってから、更新して下さい。

証明書の有効期限は

`% grid-cert-info -ed` 又は

`% openssl x509 -in ~/.globus/usercert.pem -noout -enddate` で。

万一、証明書を紛失している場合は、その旨と紛失の経緯 (簡単に結構です)、所属グループ名、フルネーム をお知らせ下さい。(証明書の subject が unique に決まります。

2. 仮想組織管理者から、ライセンス ID を受け取り、証明書を発行して下さい。手順は、利用の手引きを参照して下さい。ただし、現在、新証明書を発行できるのは、

筑波 CCS flare25.ccs.tsukuba.ac.jp

阪大 RCNP jldg-c1.rcnp.osaka-u.ac.jp

の 2 クライアントのみです。

3. .証明書を発行後、以下の情報を仮想組織管理者宛連絡して下さい。

ライセンス ID: 証明書を発行する際使用したもの

証明書サブジェクト :

% grid-cert-info -s の出力、又は、

% openssl x509 -in ~/.globus/usercert.pem -noout -subject の出力

4. 仮想組織管理者から『登録完了』旨のメールを受領した後の最初の午前 4 時以降に使用再開できます。